



## 日本財団パラリンピックサポートセンター・ 日本福祉大学共催シンポジウム ～障がい者スポーツ振興におけるパラドクス 東京2020パラリンピック競技大会の成功を目指して～

2018年5月に開催された日本財団パラリンピックサポートセンターと日本福祉大学による共催シンポジウムにおいて、パラリンピックに関連した様々な「乖離」と「格差」の中から、「ジェンダー間の格差」に焦点を当てて討議を行いました。

本シンポジウムでは、今後の障がい者スポーツ振興の促進に寄与することを目指し、さらにテーマを広げて、「国際間の格差」「パラスポーツをめぐる社会的格差」「障がいの違いとパラスポーツ」「グラスルーツスポーツにおける格差」等について、その背景と現状を分析し、今後取り組まなければならない課題等について討議します。

**日時** 2019年5月17日（金） 14:00 – 17:00（受付開始13:30）

**会場** 日本財団ビル2階大会議室 東京都港区赤坂 1-2-2

**言語** 日本語、英語（日英同時通訳つき）

**参加費** 無料

### お問い合わせ・お申込み

メールの件名を「5月17日シンポジウム参加申込み」とし、（1）お名前（2）フリガナ（3）ご所属・役職を明記して [research@parasapo.tokyo](mailto:research@parasapo.tokyo) 宛にメールにて5月13日（月）までにお申し込みください。返信を以て受付とします。定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承ください。

☆入退場時の移動および情報保障のサポートをご希望の方は、お申込みの際にお申し出ください。

日本財団パラリンピックサポートセンター パラリンピック研究会 担当 中島・田村・池田  
Tel : 03-5545-5991（平日9：00-17：00）

主 催：公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター

共 催：日本福祉大学

協 力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

# プログラム

基調講演	14:05 - 14:35	「リソースの不平等がパラリンピック夏季・冬季大会への参加と成功に与える影響」 イアン・ブリテン（英国コベントリー大学）
第1セッション	14:35 - 15:35	「日本におけるパラスポーツと社会的格差」 渡 正（順天堂大学）  「一般社会における障害の違いとパラスポーツとの関連」 齊藤 まゆみ（筑波大学）  「地域における障害者スポーツ振興の現状と課題—現場の声に見る格差と乖離」 兒玉 友（日本福祉大学）
第2セッション	15:50 - 16:55	総合討論 モデレーター：藤田 紀昭（日本福祉大学） 指定討論者：河合 純一（日本スポーツ振興センター） 全パネリスト

スピーカーは都合により予告なく変更となる場合がございます

## 登壇者プロフィール（登壇順）



### イアン・ブリテン (Ian Brittain)

英国コベントリー大学ソーシャル・ビジネスセンター助教。研究分野は、障がいとパラリンピックスポーツの視点から見る社会学的歴史学的スポーツマネジメント。国際ストーク・マンデビル車椅子スポーツ連盟執行委員会メンバーを務め、現在、国際車いす切断者競技連盟アドバイザー。



### 渡 正 (Tadashi Watari)

順天堂大学スポーツ健康科学部准教授。千葉大学文学部を卒業後、筑波大学大学院に入学、同院の博士過程を単位取得退学後、早稲田大学スポーツ科学学術院助手、徳山大学経済学部准教授などを経て、15年より現職。専門はスポーツ社会学、障害者スポーツ論。車椅子バスケットボールのフィールドワークをベースにした研究で博士号取得。



### 齊藤 まゆみ (Mayumi Saito)

筑波大学体育系准教授。筑波大学大学院体育研究科修了。代表を務める「アダプテッド体育・スポーツ学研究室」には30名の大学院生、学群生が所属している。専門はアダプテッド・スポーツ科学であり、現在の研究テーマはデフスポーツ・パラスポーツにおける競技力向上、アダプテッド体育・インクルーシブ体育。



### 兒玉 友 (Yu Kodama)

日本福祉大学スポーツ科学部助教。兵庫教育大学大学院教育内容・方法開発専攻行動開発系教育コース修了。神戸市立市民福祉スポーツセンター支配人、文部科学省及びスポーツ庁の障害者スポーツ振興室係長などを経て現職。研究分野は、障害者スポーツ論。現在、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会委員、同障がい者スポーツコーチ部会委員。



### 河合 純一 (Junichi Kawai)

日本スポーツ振興センタースポーツ研究部前任研究員。日本パラリンピアンズ協会会長。生まれつき左目の視力はなく右目も15歳で失明。5歳で水泳をはじめ、92年バルセロナから12年ロンドンまで6パラ大会連続出場、50歳自由形3連覇を含む金5、銀9、銅7。16年にはアジア人初のIPCのパラリンピック殿堂入り。



### 藤田 紀昭 (Motoaki Fujita)

日本福祉大学スポーツ科学部部長。筑波大学大学院体育研究科修了。徳島文理大学専任講師、同志社大学スポーツ健康科学研究科教授などを経て、現職。研究分野は、体育学、障害者スポーツ論。「地域における障害者スポーツの普及促進に関する有識者会議」座長を務め、現在、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長。